

平成27年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 楠見東小 学校
校長氏名	棚田 修司
作成日	平成27年12月14日

1 教育目標

正しい人権意識を持ち、豊かな知性と情操を身につけ、健康で自主性に富み、みんなと協力して力強く生きぬく子を育てる。

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	・保護者や地域の方々との連携を強め、地域や保護者の願いを学校運営に活かす。	・相手の気持ちを理解し、思いやりのある心を育てる。 ・正しいと思うことに進んで取り組み、最後まで粘り強くやり抜く子どもを育てる。	・国語科を研究の中心にすえ、基礎・基本となる力を身につけ、コミュニケーション能力の育成に努める。 ・課題に意欲的に取り組み、自ら学び考えていこうとする力を育てる。

取組の状況【D】	・民生児童委員との懇談会を定期的にもつとともに、常に情報交換を図る。 ・総合的な学習の時間及び子どもセンター事業等に積極的に地域の人材を活用する。 ・毎月学校だよりを楠見地区全域に配布(回覧板利用)し、情報を発信する。 ・本校が会場となる「楠見地区防災訓練」を通じ、地域の方々と一緒に防災に関して理解を深める。	・挨拶や掃除に常に取り組み、学校生活の中に自然な形で人と人との関わりを大切にする。 ・子ども見守り隊の「子育て支援ネットワーク楠見」の方々や児童の交流を図る。 ・地域の介護老人施設との交流を深める。 ・地域の老人会との交流を深める。	・「きのくに学力定着フォローアップ事業」を活用し、授業力の向上を図る。 ・「東タイム」及び「チャレンジタイム」で基礎・基本の定着に努める。 ・「家庭学習の手引き」で家庭学習の重要性を伝え、保護者の協力を得ながら家庭学習の充実を図る。
(評価結果【C】)	・学校だよりを楠見地区全体に配布することにより、より広範囲な地域住民にも学校を知ってもらうことができた。 ・楠見地区民生児童委員との懇談会を開催していただき、気になる家庭や児童について、積極的な見守りができた。 ・「楠見地区防災訓練」が開催され、地域の方々や一体となって防災意識の向上に資することができた。	・朝夕の登下校時に挨拶ができるようになってきた。また、子ども見守り隊の方々に感謝の手紙を届け、喜んでもらった。 ・介護老人施設や老人会との交流により、他人を思いやる心や人権意識の向上により効果を得ることができた。	・「きのくに学力定着フォローアップ事業」を通じ、授業力を向上させることができた。授業研究も深まった。 ・東タイムやチャレンジタイムの活用が定着して、効果が出てきた。 ・「家庭学習の手引き」を配布することにより、徐々に保護者の理解・協力が得られてきている。
改善方法【A】	・学校開放期間に関わらず、保護者や地域住民の人がいつでも学校に来てもらえるような工夫を考える。また、学年集会についても積極的に案内をしていく。 ・地域の関係機関との連携をさらに深め、各行事等に積極的に参加する。 ・28年度は「楠見文化のまつり」の会場となるため、地域の人々と一緒にまつりを盛り上げていきたい。	・介護老人施設や老人会との交流や、様々な活動を通じ、人を思いやる心を育てる取り組みをさらに進める。また、コミュニケーション能力や社会性の向上をめざし、取り組みを推し進めていく。 ・将来に夢や希望をもたせたり、自尊感情を育てていく取り組みの工夫をする。	・授業力の向上に引き続き取り組む。 ・東タイム及びチャレンジタイムの取組を効果的に実施できるよう改善する。 ・学力アップのため、チームティーチングや個別指導等をできるかぎり実施する。 ・各学級に在籍する特別支援が必要な児童に対しての取組の充実を図る。

3 その他の課題

・各担任は個別対応に必要な児童に対して、より一層丁寧な取り組みが必要とされて、その数は増加傾向にある。益々指導の困難さは増してはきているが、児童理解をさらに深め、情報の共有や指導の工夫で、児童にとって学校が楽しい学習の場となるよう取り組む必要がある。地域や関係諸機関ならびに各種ボランティアの協力を得るなどして、連携・連絡を密にしながら、粘り強く取り組んでいきたい。